



卸勤務薬剤師会のページ

平成23年度日本医薬品卸勤務薬剤師会「フォーラム」 会員発表の概要紹介

平成23年度フォーラムは、42都道府県から東京会場93名・大阪会場104名、関係者46名と併せて合計243名の会員・関係者の出席にて開催された。

木俣博文会長、日本医薬品卸業連合会の別所芳樹会長、日本薬剤師会の児玉孝会長（東京会場）、日本薬剤師会の藤垣大阪府薬会長（大阪会場）にご挨拶を頂いた。別所会長からは日本医薬品卸業連合会の今年度の方針と震災時、卸薬剤師も薬の専門家として活動をしてもらったとの感謝と併せて、卸の薬剤師も薬のプロであり、今後も地域の活動に参画し、卸の価値の上がる活動を期待している旨のご挨拶を頂いた。また、児玉会長、藤垣大阪府薬会長からは今年度の日本薬剤師会の活動方針と震災時の卸の活躍は今回の活動で認識された旨等のご挨拶を頂いた。その後、講演2題と、本多委員長（東京）、石関副会長（大阪）に会員発表の座長を務めていただき、会員発表が行われた。以下に、会員発表の概要とアンケート結果を紹介いたします。

今回の会員発表テーマは前回に引き続き「地域における卸勤務薬剤師の活動」で、関東ブロック、甲信越ブロック、中国ブロック及び北海道ブロックからそれぞれの地域での活動が発表された。

演題1. 東日本大震災 茨城県内医薬品卸の対応

関東ブロック茨城県支部
㈱メディセオ 北関東支社
黒川 一

【概要】

被災時の写真を交えて、震災発生直後から社員の安否確認・保冷品等の品質管理・上位物流の確保・作業員の確保・電源や燃料の確保・医療機関への配送等。また、繋がらない携帯電話等、情報収集や伝達も低下し寸断された道路等の環境の中、物流確保と安定供給のため、現地において必死で対応をしていた様子を紹介された。今後の課題と問題解決として、情報の収集伝達上、複数の連絡手段の確保や電源・燃料等エネルギーの確保が重要。FAXは電話と連動しており電気が来ないと動かないし、外部と繋がっている電話は本機のみであり、皆で本機がどれであることを認知しておく必要がある。また、緊急時はマニュアル等決められた通りにはいかない、実際の被災時には現場はパニックとなり、役割を担っている人も固まっている。例えば避難号令を出す人も固まっていることもあるので、誰でもいいから大声で退避号令を発することが重要と感じた。訓練は必要であるが役割が決められている人以外も臨機応変な対応が必要であるとの発表があった。



演題2. 災害対策と卸勤務薬剤師

甲信越ブロック長野県支部
東京会場
東邦薬品㈱ 松本営業所
清水俊宏
大阪会場
㈱メディセオ 伊那支店
山田勝章



【概要】

3月12日長野県栄村と6月30日の松本（震度5）における地震の状況を、写真を交えて話され、県内の医薬品卸の災害対策状況及び緊急時に薬剤師ができることの事前準備として、行政や医療機関などとの連携、近隣他卸との連携、訓練（マニュアル・命令指揮系統）、また、品質管理として破損状況確認、使用可能医薬品の確認、不正流通の防止、紛失・事故の防止等をあげられ、緊急時には薬剤師も現場に出ていき集積所・救護所での支援物質の仕分けやOTCの活用を図ることが重要であり、薬剤師法第一条にある、国民の健康な生活を確保するため、卸薬剤師も「なんでもやること」であるとの発表があった。

演題3. 国体におけるドーピング防止活動に参加して

中国ブロック山口県・広島県支部
東京会場
常盤薬品(株) DIセンター
田坂照彦

大阪会場
(株)サンキ 薬事情報室
山脇慶一



【概要】

2011年の山口国体のドーピング防止活動に参加してこのテーマにて、初めにドーピング防止活動の目的及び世界と日本の防止規定やなぜ薬剤師による活動が有用なのかを解説した。また、山口県薬剤師会のドーピング対策特別委員会の主な活動として、救護所医薬品のチェック、県薬会員への啓蒙方法、医師・歯科医師・登録販売者への啓蒙方法、大会期間中24時間ホットラインを開設し、その対応と相談状況を紹介した。卸薬剤師は医療用・一般用・動物用など多種類の医薬品を取り扱っており、医薬品の流通にも詳しく、所定の講習を修めれば、スポーツファーマシストになれる。講習会は、開催地の前年にその地で開催され認定を取れるとの発表があった。

演題4. 薬剤師養成の一躍を担って ～薬学生体験実習(3年次)の受入れを実施して～

北海道ブロック北海道支部
(株)スズケン 薬事管理部北海道薬事課
福井美加子



【概要】

北海道における医薬品卸への5年次の実務実習ではなく、3年次の薬剤師業務体験学習の概要について説明された。依頼先は北海道薬科大学からであり、受入先は各分野の企業や施設であるが、医薬品卸は3卸40名を受入れて5日間実施した。卸企業の受入目的は社会貢献の一環、学生に医薬品卸企業について理解してもらい、リクルートも意識してとのこと、学生への事前要望では卸業連合会ホームページの医薬品卸連ガイドの内容確認をお願いした。カリキュラムは講義・見学・体験・同行等を組み、1講義40～50分、講師も同一人物にならないよう工夫を凝らした。学生から学習を終了して、医薬品卸企業や卸薬剤師やMSについて理解で

きた、卸薬剤師についてもやりがいを感じた、コミュニケーションの重要性に気が付いた、将来薬剤師になるにあたっての決意等の感想及び受入側としての感想の紹介があった。また、今後の課題として、座学から体験型への工夫、講義・見学での説明資料の作成と配布に関する検討、受入人数の検討、学生が薬事法を理解していない状況での説明方法、学生指導にかかる卸の負担、医薬品卸各社での連携の必要性の有無の検討等が必要ではないかとの発表があった。

アンケート結果

講演1はテーマ良い(評価点4・5)を合わせて86%、内容良いは87%、講演2は83%と79%で両講演とも比較的高評価であった。会員発表はテーマ良いを合わせ72～86%、内容良い46～82%の評価であった。コメントを一部紹介します。

●講演1. 講演2

両教授の講演に、吸い込まれる自分がいた。少し難しい部分もあったが、とても興味深い内容だった。両テーマとも興味深く、それぞれ講師の先生の熱心な講演で大変良い講演会であった。大変勉強になった等の感想が多かった。中でも「感染症対策について」では、最近話題になったドイツでの欧州大腸菌の話は何が原因だったか解ってよかったとの感想や「Cell Delivery Systemによる癌免疫療法の最適化」では、理解しやすく資料が作成されており本当に面白かった。免疫療法が保険適応となり、選択が広がればいいと思うとの感想もあった。

●会員発表全体

会員発表は皆、普段の仕事の中で頑張っている様子が見えてよかった。普段の業務に対して気づかされる部分、考えさせられるなど、多くのことを考えさせられてよかった。今年度は身近な話題が多く実用性が高かった。他社での取組の情報共有や卸勤務薬剤師としての幅広い活動を知る貴重な機会となった。等の感想があった。

以上、会員発表の概要とアンケート結果を紹介いたしました。今回のフォーラムもお陰様で多数の参加者の下、盛会裏に終了することが出来ました。